

2022 年度 金沢大学教職大学院フォーラム 報告書

<テーマ>

新しい時代の教育実践の探究

	(頁)
◆ はじめに	1
◆ 全体会	5
「教職大学院の取組」	
◆ 実践発表	7
「院生（修士2年）の修了研究グループ討議」	
◆ 実践構想	23
「院生（修士1年）の研究テーマ」	

はじめに

金沢大学大学院教職実践研究科
研究科長 大谷実

教職大学院は、教育委員会との連携のもとで高度な専門職業人としての中核教員を育成するために、地域の特性や教育課題に照らして、特色あるコースやプログラムを開設し、質・量ともに発展期を迎えております。金沢大学教職実践研究科では、「理論と実践の往還」というミッションを「教職実践知の交流拠点の形成」を通して実現しようとしています。本研究科は、学校マネジメントと学習デザインの両コース、現職院生と学卒院生、すべての学校種の実践知が交流して反省的な実践共同体を形成することで、石川県の教育の発展に寄与する高度な専門職業人を輩出することを目指しております。平成28年度に開設した金沢大学教職実践研究科も、令和4年度で7年目を迎えました。当初から優れた中核教員をご推薦くださる石川県教育委員会からの絶大なるご支援、県内の市町教育委員会、現職教員院生の在籍学校や連携協力校、様々な学外のステークホルダーからの惜しみないご協力を賜り充実した研究科運営ができており、関係の皆様から心から感謝を申し上げます。

本研究科では新型コロナウイルス感染拡大以前は、2年間の学修の成果を「金沢大学教職大学院フォーラム」として年度末に開催し、全国・地域・県内の関係者の皆さまに対面にて公開してまいりました。今回のフォーラムでは、「新しい時代の教育実践の探究」を主題とし、学校と地域がともに活性化するうえで教職大学院が中核的なハブとなることに挑戦するという願いをこめ、新型コロナウイルスの感染も比較的落ち着きを見せる中、対面・遠隔のハイブリッドにより開催しました。当日は、開会にあたり、主催者を代表して森本章治理事・副学長より挨拶を賜りました。全体会では、本学教職大学院の特色ある取り組みについてその一端を紹介し、続く分科会において、2年次院生15名が各自の実践修了研究について5つのグループに分かれて発表を行い、全国からの参加者、修了生が学校実習等でご指導をいただいた各連携協力校の先生方、そして附属学校園の先生方のご参加のもと、活発な質疑応答がなされ、講評として石川県教育委員会指導主事及び県で指導的役割を担っておられる管理職の方々よりご指導・ご助言者をいただきました。また、1年次院生は、各自の研究主題をクラウドでオンライン公開し、ご指導・ご助言を賜る機会を設けました。本報告書はフォーラム当日の記録を留めるとともに、1年次院生が作成したポスターを収録し、本研究科が希求する教職実践知の交流拠点というテーマについて広くご意見を寄せていただくことや、教職大学院が全体として直面している課題や今後の展望を考えるための礎石となるようにという願いを込めて刊行したものです。是非お目通しいただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

最後になりますが、今回のフォーラム開催にあたり後援をいただいた石川県教育委員会ならびに石川縣市町教育委員会連合会、学校実習の連携協力校の管理職の皆様、ご参加下さいました皆様には格段のご支援とご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

2022年度 金沢大学教職大学院フォーラム

新しい時代の教育実践の探究

日時

令和5年 **3月4日** **土**
 13:00~16:20 [受付] 12:30~

方法

ハイブリッド
 (対面とZoomによる)

場所

金沢大学
人間社会第2講義棟

〒920-1192 金沢市角間町

全体会 第2講義棟 402講義室
 分科会 第2講義棟 2~4階講義室



金沢駅兼六園口(東口)6番乗り場「金沢大学(角間)」行き乗車、
 「金沢大学(終点)」下車徒歩約3分(JR金沢駅から約40分)

**参加費
 無料**

事前申込み必要

プログラム

12:30~13:00

受付 (対面 402講義室前)
 (Zoom ミーティングルームへの入室)

13:00~13:35

全体会 (教職大学院の取組)

13:45~16:20

(ミーティングルームごとの終了)

実践発表 (2年次院生15名)
 5つのミーティングルームに分かれて発表

- ・ラウンド1 (5名) 13:45~14:30
- ・ラウンド2 (5名) 14:40~15:25
- ・ラウンド3 (5名) 15:35~16:20

※1年次院生発表 (YouTubeによる動画配信)

写真提供: 石川県観光連盟

【主催】 金沢大学大学院教職実践研究科 (教職大学院)

【後援】 石川県教育委員会 石川県市町教育委員会連合会

【お問い合わせ】 金沢大学人間社会系事務部総務課 TEL: 076-264-5448

E-mail: n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp <https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp>

2022年度 金沢大学教職大学院フォーラム 新しい時代の教育実践の探究

実践発表は、グループに分かれて行います。対面での参加の場合、どのグループに参加していただくかは、以下から第2希望までお選びいただき、お申込み時にグループ名をご記入ください。オンラインでの参加の場合、当日ご希望のグループにお入りください。

※対面での参加の場合、参加人数の関係でグループ間の移動はできません。
オンラインでの参加の場合、グループ間の移動は可能です。

実践発表内容

グループ	ラウンド	発表者	研究テーマ〈変更される場合があります〉
A	1	漆田 健 数学〔中〕 (学部卒)	中学校数学を苦手とする生徒の学習を支援する授業デザイン ～一次関数の利用を中心として～
	2	坪田 拓都 数学〔中〕 (学部卒)	思考力・判断力・表現力の育成を目指した中学校数学科の授業デザイン ～関数・図形領域におけるICT機器の活用を基に～
	3	三浦 彩 数学〔中〕 (金沢市立鳴和中学校)	中学校数学科の数学的活動における生徒によるICT活用の可能性 ～SAMRモデルに拡張的学習を取り入れた視点から～
B	1	染谷 直希 生物〔高〕 (学部卒)	高校生が環境に対して科学的に理解し論理的に説明できる授業方法
	2	高橋 大祐 数学〔高〕 (学部卒)	高等学校数学科における概念定義と概念イメージの融合を促す 授業デザイン
	3	大野 拓也 公民〔高〕 (石川県立金沢伏見高等学校)	高等学校公民科における探究学習の実践での成果と課題 ～自ら問い、自ら考える生徒の育成を目指して～
C	1	長 寛彰 社会〔中〕 (学部卒)	理解型授業における問題の改善を目指した実践研究
	2	浜田 洋平 社会〔中〕 (金沢市立大徳中学校)	多面的・多角的な思考を育成する社会科の授業デザイン ～PBL理論と足場かけを用いて～
	3	角 亜紀子 国語〔小〕 (小松市立月津小学校)	物語を理解し、自分の考えを持つための言語技術の学習プロセス
D	1	松岡 歩実 外国語〔小〕 (学部卒)	自分の考えや思いを表現できる子どもを育成する小学校外国語の 授業デザイン
	2	柳澤 志貴武 美術〔特・中〕 (石川県立いしかわ特別支援学校)	思い付きを育てる美術の授業デザイン
	3	中屋 順子 (石川県立小松特別支援学校)	個業から協働への変革を促す学年主任のリーダーシップのあり方 ～中規模特別支援学校の学年会を中心とした取り組みを通して～
E	1	北川 直美 (石川県立羽松高等学校)	「支え合い・共に生徒を見ていく」校内体制づくり ～小規模校における「生徒理解の会」の取り組みを通して～
	2	小町 成美 (珠洲市立直小学校)	サードプレイスの機能を有する若手教員早期育成プログラムの構築
	3	田中 天真 (宝達志水町立相見小学校)	若手の成長をサポートする若プロコーディネーターの役割 ～若プロ校内研修及び日常的な関わりを通して～

■ : 学習デザインコース □ : 学校マネジメントコース

お申込み
方法

参加を希望される方は、Webサイトの専用フォームからお申込みください。

<https://pdte.ed.kanazawa-u.ac.jp/forumregisterr5>

【申込み締切】 令和5年2月24日(金)



全 体 会

「教職大学院の取組」

【発表者】

本所 恵 （金沢大学大学院教職実践研究科・准教授）

教職大学院の取組

金沢大学大学院教職実践研究科
准教授 本所恵

私からは、日頃の研究科の活動をご紹介します。研究科は、今は学習デザインコースと学校マネジメントコースの2コースがあり、共通科目とともに各コース科目があります。1年目は大学院で共同して学び、2年次は現場で実際に実習をし、それを週1回くらい大学院に持ち帰ってきて、リフレクションやカンファレンスによって学びを深めていきます。そして最後に実践研究修了報告にまとめるという流れになっています。今日はその2年間の学びをまとめた実践報告の発表がおこなわれるわけです。

大学院での活動のそれぞれは、「角間の窓」という通信を使って、普段お知らせさせていただいているので、それがwebに載っているの、今からそれを見ながら1年間の流れを紹介したいと思います。

4月は、新入生のオリエンテーションがあり、2年生は学校実習Ⅱが始まります。2年生は、1年ぶりの学校現場で、忙しい日々が始まります。ここにポスターがありますが、1年生の最後に各院生の研究課題と研究方法、分析などをポスターにして壁にかけています。それに基づいて、2年次1年間の研究を進めていくこととなります。

それで4月から1年生は授業が始まります。授業では石川県の教育実践、自分が今まで行ってきた教育実践の背景を知る、そしてそれをより広い視野から見る、客観的にもっといろんな学校を知るといったことを意識しながら学びます。左側はろう学校を

訪問しておりますが、色々な学校を訪問する機会を大切にしています。

下の方は「専門研究」の紹介です。2年目に実践研究に取り組むために1年生の初めからずっと、文献検索の方法など研究スキルを学び、研究をまとめていくことを意識した授業も行われています。

授業は続きます。これは、「地域教育実践」という授業で色々な方をゲストに招いたり、学校訪問をしている場面です。授業以外のサポートもあり、右下には教員採用試験に向けての支援がのっております。

また、2年生が学校現場から大学院に戻ってくる折に開かれるおおよそ月一回の「実践カンファレンス」では、1年生も交えて皆で、現在の実践研究の状況を順番に語り合います。それはかなり時間をゆっくり取って行っていて、理論と実践の往還というコンセプトの中心的な舞台になっています。1年生にとっては、来年自分がどうなっているのかをイメージしながら参加できます。

他に、この左下にある大学院GS科目などでは、金沢大学が総合大学であることを活かして広い視野をもつ科目を学ぶことができる科目が設定されています。

右側には「フォローアップの日」と書いてありますが、修了生が集って今の状況や実践などを交流する場が毎年設けられています。今年は、附属学校園のコラボレーション推進室の福田先生から探究学習に関する報

告をいただきました。その他は修了生の実践報告や分科会を設けて情報交換を行ないました。

後期に入る前には、M1生が「学校実習Ⅰ」に行きます。これは附属学校園に行き、そこでの研究を見たり、授業をして、自分の実践研究のテーマを固めるための実習です。

そして後期授業のスタートと同時に、「学校実習Ⅰ」の振り返りを行っています。年間を通して、活動の一つひとつをきちっと振り返って意味付けていくことを大事にしています。理論的な学びを大学院ですすめる中で、振り返る視点がより質の高いもの、深いもの、広いものになっていくと考えて、振り返りをかなり丁寧に行っています。

この下も、「地域教育研究」で泉丘高校を訪問した時の記事です。訪問では、その教育実践とともに、そのための支援体制や、学内外との連携などを意識しながら多くを学び取っていました。こちらは、小松市立松東みどり学園に訪問した時の記事です。

後期には M1 生のカンファレンスと共にゼミが本格始動します。ゼミはすべての院生に実務家教員 1 人と研究者教員 1 人が付いて、理論的かつ実践的にみることを支えます。

今年は、M1 生が「院生通信」という通信を出して、かなり自立的に学び合う集団づくりをしていました。自分たちで学び合うという姿勢が教職大学院の特徴でもあると思っています。学校訪問に行く際にも、連れ立って行ったり、終わった後にシェアしたりしており、仲間で高めあう姿は、ずいぶん頼もしく、こちらにも刺激を受けます。

そして右側は先月ですけれども、実践研究中間報告会で、M1 生が学校実習に向けて

自分の 1 年間のまとめを行いました。それとともに M2 生も、実践研究修了報告会を 1 ヶ月前に行なっております。基本的にはこの会と同じ、あるいはそれをよりブラッシュアップしたものが、今日聞けるかなと思います。ここまでが、今年 1 年間の流れです。

最後の部分は去年度の「角間の窓」になりますが、今日のフォーラムがあった後に、学位記授与式で 1 年間が終わります。今日は、2 年生はオンラインとハイブリッドで発表しますが、M1 生は去年と同じように YouTube 動画による発表なので、こちらの動画をご覧ください。

そしてこれは、「角間の窓」にはまだないおまけなのですが、明後日から院生数人は、学部生数名とともに、スウェーデンに研修旅行に行きます。今年の院生は、事前の学習会をきちっと自分たちで開いて、今までにスウェーデンに行った先輩をゲストとして招きながら、積極的に学習していました。こうした姿はとても頼もしく思います。

そんな今年ですが、来年度からは教職大学院はカリキュラムを一新して、2 つのコース、学習デザインと学校マネジメントを 1 つにまとめて、みんなどちらの視点も大事にしながら、新たなテーマ〈探究教育〉と〈共生教育〉という領域を立てて、それらを軸に学んでいきたいと思っています。

私からの紹介は以上です。ありがとうございました。